

第1回校友会設立総会を開催しました

関東職業能力開発大学校では、地域に根差した大学を目指し、より一層地域に貢献できる体制整備を図るため、本年6月1日に関東職業能力開発大学校校友会（以下「校友会」という。）を設立し、去る10月22日に能開大において第1回校友会設立総会を開催いたしました。

当日は、地域の皆様に能開大をご覧いただく恒例の「恵風祭（学園祭）」と「ポリテックビジョン in 栃木」が同時に開催され、多くの来場者で賑わう中で総会を開催しました。

校友会が設立されてはじめての今回の総会は、最初に関東能開大を代表して荒校長から校友会の設立に至った経緯及び目的についての説明と、今後、校友会がより一層羽ばたき、事業及び情報提供等の展開を図っていく旨の挨拶がありました。次に議長の選出が行われ、議案の審議へと進んでまいりました。最初に、校友会役員の選出方法及び事業年度の考え方に関する「校友会会則の改正」が審議され、出席会員の3分の2以上の賛成により承認されました。続いて「平成28年度事業計画」について審議されましたが、出席会員から校友会事業の情報提供をより一層充実させる必要性があるとの意見があり、審議の結果、「登録会員の拡充を図る」項目が追加されました。最後に「役員選出」が行われ「会長1名」、「副会長3名」及び「幹事14名」の候補者が承認され、改めて荒校長を会長とする新役員体制が固まり、事業の推進に向けて一致協力していくことが確認されたところであります。

最後に新役員を代表して副会長の丹羽様（生産機械科（昭和59年度卒））から「卒業生自身がしっかりしなければならないこと」、「能開大の学生については、これからも社会からニーズがあり、多くの人材を輩出する必要があること」、また、「登録会員については、少なくとも卒業生の10%は必要であること」といった挨拶を頂戴し、今後の校友会としての行動を改めて心に決することとなりました。

また、校友会の役割として、今後、能開大の情報を広く提供していくうえでも、能開大そのものがしっかりと地に足を付け事業を推進することは勿論のこと、能開大への理解が深められるようより多くの皆様に情報が提供できるよう登録会員の拡充を積極的に図る必要性を認識し閉会しました。

総会の後、参加者による交流会が小山駅周辺において開催され、多くの発展的かつ積極的な意見の交換がなされ、お互い今後活かせる情報を得ることが出来たと思っております。

校友会は、世代を超えた交流の場でもあります。皆様、懐かしさからいろいろな情報を交換し合いながら楽しいひと時を過ごしていただいたと思います。今後、多くの方々にご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。